

まず、先生が現在所属しておられる大学と
地域との関係についてお聞きします。

国立大学と地域社会の交流に関する調査

調査の趣旨とご協力をお願い

わたくしども国立大学の教官を中心にした「大学・地域交流研究会」では、文部省科学研究費（基盤研究（A））の交付を受け、国立大学の地域社会との関係について総合的な研究を進めております。

1991年の設置基準改訂を機に本格化した一連の改革の動きの中で、大学の社会との交流のありかたが問われていることはご承知のとおりで、なかでも、国立大学はいま、大きな転換期を迎え、教育・研究の双方について地域社会との関係のありかたを問われ、また、新しい交流のかたちの模索が進められています。

その交流の現状の一端は、いわゆる「自己点検評価報告書」などにもうかがうことができます。しかし、多様な交流の実態をとらえ、今後の方向性を探るためには、直接先生方のご意見をうかがうことが不可欠と考え、この調査を企画いたしました。調査の結果から、国立大学の将来や地域との交流のあり方を考える上での重要な手掛かりが得られることを願っています。

調査は、学術的な研究の一環として行うものであり、得られたデータはすべて統計的に処理し、先生方にご迷惑をおかけすることはありません。ご多忙中、大変恐縮に存じますが、本調査のご趣旨をご理解、ご協力くださるようお願い申し上げます。

回答は11月29日までに、同封の封筒により切手をはらずにそのままお寄せ下さい。

<大学・地域交流研究会>

天野郁夫（国立学校財務センター） 小林雅之（放送大学） 秋永雄一（東北大学）
佐藤直由（山形大学） 藤村正司（新潟大学） 山崎博敏（広島大学）
加野芳正（香川大学） 吉本圭一（九州大学） 新富康央（佐賀大学）

この調査についてのお問い合わせは、下記の共同研究者をお願いいたします。

研究代表・天野郁夫（国立学校財務センター）
〒261 千葉市美浜区若葉2-12 TEL:043-274-3801, FAX:043-274-4032
事務局・小林雅之（放送大学教養学部）
TEL:043-298-4133, FAX:043-298-4133, E-mail: masadayo@u-air.ac.jp

問1 先生からごらんになって、所属しておられる大学はどんな大学だと思いますか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	おおいに あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまら ない	全く あてはま らない
A. 教員は地域によく貢献している	1	2	3	4
B. 卒業生は地域の各界の第一線で活躍している	1	2	3	4
C. 優れた学生が各地から集まってきている	1	2	3	4
D. 全国的にみて教育の充実した大学である	1	2	3	4
E. 研究のレベルは全国的にみて高いほうである	1	2	3	3

問2 先生の所属しておられる大学は、地域的のどのような範囲に貢献している大学だと思いますか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	おおいに 貢献して いる	やや 貢献して いる	あまり 貢献して いない	全く 貢献して いない
A. 所在県に	1	2	3	4
B. 所在地方（東北、九州など）に	1	2	3	4
C. 全国的に	1	2	3	4
D. 国際的に	1	2	3	4

問3 先生の所属しておられる大学の地域社会への貢献について、(イ)現状をどう評価されますか。(ロ)将来のあり方について、どのようにお考えですか。(イ)(ロ)について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

	(イ) 現 状				(ロ) 将来のあり方		
	おおいに貢献している	やや貢献している	あまり貢献していない	全く貢献していない	もっと貢献すべき	現状でよい	あまり貢献しなくてもよい
(1) 地域の教育機会							
A. 地域の高校生の進学機会として	1	2	3	4	1	2	3
B. 地域で活躍する人材の養成に	1	2	3	4	1	2	3
C. 職業人の再教育に	1	2	3	4	1	2	3

(2) 地域の文化・教育

D. 地域住民の教養の向上に	1	2	3	4	1	2	3
E. 地域の文化の振興に	1	2	3	4	1	2	3
F. 地域の教育機関の活性化に	1	2	3	4	1	2	3
G. 地域における国際交流に	1	2	3	4	1	2	3

(3) 地域の行政・経済・福祉

H. 地域の政界・行政に	1	2	3	4	1	2	3
I. 地域の企業・産業界に	1	2	3	4	1	2	3
J. 地域の保健・医療・福祉に	1	2	3	4	1	2	3
K. 市民団体・ボランティアに	1	2	3	4	1	2	3

問4 先生の所属しておられる大学の教育・研究の発展という面からみて、大学が所在する地域社会の特質を、先生はどのようにお考えですか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	十分である	やや不十分である	不十分である	どちらともいえない
A. 都市の規模	1	2	3	4
B. 交通の便	1	2	3	4
C. 自然環境	1	2	3	4
D. 文化的環境	1	2	3	4
E. 高等教育機関の数や配置	1	2	3	4
F. 地域内での学術・研究活動の活発さ	1	2	3	4
G. 卒業生の雇用機会	1	2	3	4
H. 地域の人々の大学への親近感	1	2	3	4
I. 地域のまとまりや連帯性	1	2	3	4

問5 先生の所属しておられる大学への地域からの協力体制を、どう評価されますか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても協力的である	やや協力的である	あまり協力的でない	全く協力的でない
A. 地方自治体や地域の政界	1	2	3	4
B. 地域の企業・産業界	1	2	3	4
C. 地域の教育界	1	2	3	4
D. 地域の保健・医療・福祉団体	1	2	3	4
E. 地域の文化・芸術・マスコミ	1	2	3	4
F. 市民団体・ボランティア団体	1	2	3	4

つぎに、先生ご自身のご経験について、お聞きします。

問6 先生は、過去1年間に県内・県外にある次のような機関・団体から協力を要請されたことがありますか。それぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

	要請に協力した		要請はあったが協力しなかった	要請はなかった
	県内	県外		
A. 市町村の行政	1	2	3	4
B. 県や国等の行政	1	2	3	4
C. 企業・経済団体	1	2	3	4
D. 教育機関・研究機関	1	2	3	4
E. 保健・医療・福祉の団体	1	2	3	4
F. 文化・芸術団体、マスコミ	1	2	3	4
G. 市民団体・ボランティア団体	1	2	3	4

→問6のA～Cについて、1または2に○をつけた方は、以下の間にお答えください>

問6SQ お答えになった行政や企業からの協力要請は、主にどのような仕事でしたか。また、主にどのようなルートを通してのものでしたか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	主に大学の組織を通して	主に個人のルートで	両者が同じ程度
(行政からの依頼)			
A. 審議会や委員会の委員・助言者など	1	2	3
B. 研究の依頼や報告書・資料の作成など	1	2	3
C. 講演会・講習会の講演者・講師など	1	2	3

(企業からの依頼)

D. コンサルタントや研修会の講師など	1	2	3
E. 共同研究や委託研究など	1	2	3
F. 研究員や研修生の受け入れなど	1	2	3

問7 過去1年間に、所属されている大学が実施している地域との交流・大学開放の事業に参加されたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。また、それぞれについて、具体的に活動の内容をお答えください。

		それぞれの具体的な活動の内容を、いくつでもお答えください。
1	大学全体として実施している活動に参加した	
2	所属部局等で実施している活動に参加した	
3	所属の部局以外で実施している活動に参加した	
4	どの活動にも参加したことがない	

問8 先生は、地域のもっている次のような資源を教育・研究面で、どの程度利用しておられますか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	教育面で				研究面で			
	おおいに利用している	やや利用している	あまり利用していない	全く利用していない	おおいに利用している	やや利用している	あまり利用していない	全く利用していない
A. 自治体・企業・学校などの施設・設備	1	2	3	4	1	2	3	4
B. 地域の人材	1	2	3	4	1	2	3	4
C. 地域の資料や情報	1	2	3	4	1	2	3	4
D. 自治体や企業の資金	1	2	3	4	1	2	3	4
E. 地域の自然・社会環境	1	2	3	4	1	2	3	4

問9 地域との交流は、先生ご自身にとってどのような意味があるとお考えですか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	そう思う	ある程度 そう思う	そう 思わない	あてはま らない
A. 自分の研究により刺激がある	1	2	3	4
B. 学生の教育や指導面での効果大きい	1	2	3	4
C. 学生の就職市場を開拓できる	1	2	3	4
D. 研究費を獲得できる	1	2	3	4
E. 経済的な報酬や社会的な知名度が得られる	1	2	3	4
F. 地域社会に貢献できる	1	2	3	4

問10 今後、地域からの協力要請があった場合、先生はどのように対応しようとお考えですか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	積極的に 応じたい	内容に よって 応じたい	原則として 応じたく ない
A. 市町村の行政	1	2	3
B. 県や国等の行政	1	2	3
C. 企業・経済団体	1	2	3
D. 教育機関・研究機関	1	2	3
E. 保健・医療・福祉の団体	1	2	3
F. 文化・芸術団体・マスコミ	1	2	3
G. 市民団体・ボランティア団体	1	2	3

問11 地域との交流を深める上で、大学の側にはどのような障害があると、先生はお考えですか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけて下さい。

	そう 思う	ある程度 そう思う	そう思 わない	何とも いえない
A. 社会的サービスが業績として評価されない	1	2	3	4
B. 教育・研究で忙しくて時間がとれない	1	2	3	4
C. 大学に地域交流のビジョンがない	1	2	3	4
D. 大学と地域との交流を担当する窓口がない	1	2	3	4
E. 地域との交流のノウハウが大学側に欠けている	1	2	3	4
F. 地域交流をする具体的な必要性に乏しい	1	2	3	4
G. 地域のニーズにこたえるような研究が大学に少ない	1	2	3	4

問12 地域との交流を深める上で、地域の側にはどのような障害があると、先生はお考えですか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	そう 思う	ある程度 そう思う	そう思 わない	何とも いえない
A. 大学の社会的サービスに対する地域からの評価・報酬が低い	1	2	3	4
B. 人的なネットワークが閉鎖的で特定の人に偏っている	1	2	3	4
C. 地域の側が、地元の大学との交流より、中央の方を向いている	1	2	3	4
D. 大学との交流のためのコーディネータ機能が、地域の側に欠けている	1	2	3	4
E. 大学との交流をするためのノウハウが、地域の側に欠けている	1	2	3	4
F. 地域の側に、大学との交流をする具体的な必要性に乏しい	1	2	3	4
G. 大学の研究を活用できるような企業が地域に少ない	1	2	3	4

これからの質問は、先生が所属しておられる大学だけでなく、
国立大学一般の今後のあり方についてお聞きします。

問13 国立大学のあり方に関する以下のそれぞれの項目について、先生のお考えに近い番号に○をつけてください。

(1) 大学の人材養成について

A. 地域の発展に役立つ人材の養成を、第一に考えるべきだ	B. 地域を超えて活躍する人材の養成を第一とすべきだ
<small>Aに賛成</small> <small>どちらかといえば</small> <small>どちらかといえば</small> <small>Bに賛成</small> <small>Aに賛成</small> <small>Bに賛成</small>	
1-----2-----3-----4	

(2) 大学の教育について

A. 地域と交流して、実践的な教育の充実をはかるべきだ	B. 地域とかわりなく、大学独自の理念にたつた教育をすべきだ
<small>Aに賛成</small> <small>どちらかといえば</small> <small>どちらかといえば</small> <small>Bに賛成</small> <small>Aに賛成</small> <small>Bに賛成</small>	
1-----2-----3-----4	

(3) 大学の研究について

A. 地域との交流を持ちながら、新たな時代の学問の発展をはかるべきだ	B. 地域社会にとらわれることなく、普遍的な学問を発展させるべきだ
<small>Aに賛成</small> <small>どちらかといえば</small> <small>どちらかといえば</small> <small>Bに賛成</small> <small>Aに賛成</small> <small>Bに賛成</small>	
1-----2-----3-----4	

(4) 大学の社会的サービスについて

A. 地域社会のニーズに応じて、大学は積極的にサービスを提供すべきだ	B. 地域社会へのサービスよりも、大学は教育・研究に専念すべきだ
<small>Aに賛成</small> <small>どちらかといえば</small> <small>どちらかといえば</small> <small>Bに賛成</small> <small>Aに賛成</small> <small>Bに賛成</small>	
1-----2-----3-----4	

(5) 大学と企業との関係について

A. 企業との共同研究や受託研究、人的交流を積極的に起こさうべきだ	B. 富利が目的となる企業との、積極的な交流は避けるべきだ
<small>Aに賛成</small> <small>どちらかといえば</small> <small>どちらかといえば</small> <small>Bに賛成</small> <small>Aに賛成</small> <small>Bに賛成</small>	
1-----2-----3-----4	

(6) 大学教員と地域社会との交流について

A. 学問的な発展のためにも、教員は、積極的に地域と交流すべきだ	B. 本来の教育・研究に力を注ぐためにも、教員は、地域との交流は極力控えるべきだ
<small>Aに賛成</small> <small>どちらかといえば</small> <small>どちらかといえば</small> <small>Bに賛成</small> <small>Aに賛成</small> <small>Bに賛成</small>	
1-----2-----3-----4	

問14 国立大学と地域社会との関係について、先生は以下のような考え方をどう思われますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	おおいに賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	おおいに反対
A. 地域住民子弟の入学のための優先枠を設ける	1	2	3	4
B. 学生を企業や自治体などで実習させるインターン制度を設ける	1	2	3	4
C. 県・市の資金が大学に受け入れられるような制度を設ける	1	2	3	4
D. 地域代表が大学の運営に参加することができるような制度を設ける	1	2	3	4

問15 現在、国立大学の設置形態について、さまざまに議論がなされています。

(1) 先生ご自身は、このことについて関心がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	とても関心がある
2	少しは関心がある
3	あまり関心がない
4	全く関心がない

(2) 先生は、国立大学の設置形態について、具体的にどのような考えをお持ちですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	国立大学は、現状の設置形態を維持するべきである
2	一部の国立大学は、設置形態を変更するべきである
3	すべての国立大学は、設置形態を変更するべきである
4	国立大学の設置形態については、慎重な議論を続けるべきである

(3) 国立大学の設置形態の問題を議論するときに、先生ご自身は、どのような観点を重視すべきだと思いますか。以下のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても重要である	やや重要である	あまり重要でない
A. 低所得者層への教育機会の提供	1	2	3
B. 地域への教育機会の提供	1	2	3
C. 社会の指導的な人材の養成	1	2	3
D. 研究者の安定的な供給	1	2	3
E. 高度な先端的研究の推進	1	2	3
F. 資金の得にくい分野の研究の推進	1	2	3
G. 教職員の公務員としての身分保障	1	2	3
H. 事務組織等の効率的な運営	1	2	3
I. 大学間での役割分担	1	2	3

最後に、先生ご自身についてお聞きします。

問16 先生のごこれまでのご経歴をお教え下さい。

(1) 現在所属しておられる大学での通算在職年数は

1	5年未満	3	10～15年未満	5	20～30年未満
2	5～10年未満	4	15～20年未満	6	30年以上

(2) ご出身の高校は、所属大学の所在県に

1	ある	2	ない
---	----	---	----

(3) 現在所属しておられる大学での在学経験は

A. 学部での在学経験が

1	ある	2	ない
1	ある	2	ない

B. 大学院での在学経験が

(4) 所属大学以外での勤務経験は

A. 他の大学・短大での勤務経験が

1	ある	2	ない
1	ある	2	ない

B. 大学以外の機関での勤務経験が

問17 先生のご所属・職名・年齢をご記入ください。具体的な名称を記入するか、または、あてはまる番号に○をつけてください。

A. 所属部局名

〇〇大学

(学部、研究科、センターなどの名称)

B. 職名

1	教授	2	助教授	3	講師
---	----	---	-----	---	----

C. 専門分野

1	人文科学系（語学を含む）	5	工学系
2	社会科学系	6	農学系
3	教育学系	7	医学・歯学・薬学系
4	理学系	8	保健・健康科学系
9	その他（具体的にお書き下さい）		

D. 年齢

1	29歳以下	4	50～59歳
2	30～39歳	5	60歳以上
3	40～49歳		

最後に、地域社会と大学との関係や交流について、あるいは本調査について、ご自由に先生の率直なご意見をお聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。